

事務局

大正十一年九月二十七日 午後十一時四十二分 海軍省 發

發信者 第三戰隊支隊

受信者 軍務局々員

電報譯

乗用自動車 4台及早上電話機三個
二十八日持参込返却ノ豫定
末ハ二十九日球磨横須賀回航ノ節更ニ水船
一(品川ヨリ回航セシモノ)ヲ横須賀入港務部
交付ス

海軍 模造半葉十三行原紙

1431

軍務局

大正十二年九月二十五日品川沖艦隊上

第二水雷戰隊司令部

關係各部 御中

通信艦發著時刻ノ件

聯合艦隊通信艦品川發著ニ関シ左ノ通定ム

一午前七時四五分 錨地發 (艦隊側ヨリ便架方ニ全時刻迄ニ乘船ノ上)

往 二午前八時十五分 隅田川入口掲燈浮標附近發

但シ第一艦隊旗艦附近ニ漂泊セズ

一第二艦隊旗艦附近ニ漂泊

復 二必要アル時ハ隅田川入口掲燈浮標附近ニ漂泊

三錨地ニ就ク

(終)

機務 受
九月廿六日

大正十二年九月二十五日午後十一時五十分
阿蘇一電
海軍加着

横須賀鎮守府副官

海軍省副官

本府通信艦品川發時刻ヲ明後二十
七日ヨリ午後二時ニ改メラレタシ

事務長 尹松清

軍務局

本府ノ通信艦ハ來ル五日限取止メラル

海軍省副官

横須賀鎮守府副官

大正十二年十月二日午前一一〇〇

横須賀海軍省副官

第一課
第二課

百

軍務局

人事局

法務局

第...番

三十七號

大正十三年七月四日

宇佐川横須賀鎮守府參謀長

第二課 海軍省軍務局長殿

船橋送信所無線電報ニ関スル件

軍務局長殿 御覽會ノ本件別紙ノ

通ニ有之本府ニ於テ其ノ處置ニ就キ相商

海軍省中ニ候

加回答ス

別紙一通添

ノ



海軍

1435

東京機密第二四號ニ

大正十二年十月一日

東京海軍無線電信所長

横須賀鎮守府参謀長殿

船橋送信所無線電報ノ閉スル件

九月二日ヨリ四日ニ至リ數回不逞團鮮人來襲ニ關シ
電報ノ送信並九月四日夜危急符ノ送信ニ關シ取
調候處別紙船橋送信所大森大尉報告ノ通ニ
有之候當時送信所間ノ有線無線連絡杜
絶シ唯々徒歩連絡ニ依ル電報ノ送達ノ際相互ニ
連絡ヲ為シ得んノミテ通信事務極メテ繁忙ノ

當時ニ於テ互ニ詳細ナル通信ヲ行フ餘祐ナク從テ
 送受信共ニ互ニ其ノ情況ヲ詳知スルヲ得ズ殊ニ船
 橋送信所ニ於テハ東京方面ノ情勢不明ニシテ騷擾
 ノ真相ヲ確ルヲ得ズ難者ヨリ或ハ青年団等
 ヲリ誇大ノ情報ニ接スルノミナラス警察署ヨリモ艦隊
 ニ對スル注意アリ又偵察騎兵ヨリノ報告ニ來艦ヲ
 報シ又量數ニ警保局ヨリ及後セシ電報ノ次第ニ來
 艦ニ備ヘサルヘカラス至リニト又一方ニ於テ船橋送信
 所ニ當時ニ於ケル唯一ノ通信機關ニシテ其ノ任務重大
 ニシテ苟モ之ヲ自費スル以上充分ノ防備ヲナササルヘカ
 リシナリ而シテ所内ノ狀況ハ三方ニ張りアル主塔メイシ

常肌ッ込
こゝろ屬を
ツリ

ステー、最又危険ニシテ其ノ内一車ニテモ破壊セラルトヤハ
忽チ主塔倒壊シ通信不能ニ至ルヲ以テ充分ナル防備
カヲ要セシ次第ナリ之レニ依リ送信所ニ於テハ獨斷驍
兵三千名ノ派遣ヲ要求シ又屢々東京所在所長ニ對
シ派兵ノ電報ヲ發シ又電報ノ後受信所ニ於テモ此
ノ報ニ接シ直チ海軍省副官ヲ經テ數回陸軍省ニ
派兵ヲ要求シ又電報ノ後現セスレテ止ミ九月
四日復然符ヲ發シ又偵察騎兵ノ報告ニ依リ今迄
注意喚起ノ意味ヲ以テ警備隊ノ派遣ヲ所長ニ要
求シタルモノニシテ當時無線連絡充分ナラザリシヲ以テ誤
信勢力ノ軽減足ラスレテ遠距離ニ到達シ又危急

清 司

石部ノ新ニ意味ヲ以テ後ニ見ハ甚ク遺域ト云所候

(別表)

④

1439

自九月一日震災
至九月十一日

送信所ニテ採リタル處置並ニ狀況

大森大尉

1440

概況

震災ニ續キ送受兩所間ノ通信連絡全ク杜絶セシテ以テ兩所
間ノ規約ニ従ヒ無線通信ヲ試ミタルモ何等ノ應答ナク之ト
同時ニ逋信省ノ陸線モ亦凡テ不通トナリタレハ送信所ヲ以
テ独立主無電所トシテ運用スヘク決心シ極力主無系ノ指導
管制ニ努メタリ

素ヨリ當所ニ放テ最初震災ニ依ル被害ノ斯ク迄大ナルベシ
トハ想像セズ從テ通信線モ亦前例ノ如ク数時ニシテ恢復ス
ルモノト思ヒ居シニ容易ニ恢復セズ今ハ唯東京ヨリノ公用使
ヲ俟ツノミノ状況トナレリ然ルニ俟ツコト久シキモサル形勢ナク
時間ヲ闕スルニ從ヒ火災ノ横濱、東京ニ在ルヲ確信シ得且事

態容易ナラサルモノアルヲ知リシヲ以テ不取敢午後三時ニ概況ヲ
一般ニ通報シ同夜再ヒ避難者ノ談ヲ綜合シテ概況ヲ放
送セリ是ヨリ先受信所ヨリノ公用使ハ到底来ラサルモト
断念セシヲ以テ今ハ當方ヨリ偵察兵ヲ出スニ若カストナレ遂ニ
午後四時半頃兵員ヲシテ今迄ノ送信文ヲ持參セシメ東京
ニ派遣シ又六時頃他兵ヲ第二公用トシテ派遣セリ然ルニ翌
二日ニ至ルモ右公用使帰投セサルヲ以テ再ヒ第三使ヲ二日午
前七時ニ派遣セシニ漸ク午後三時頃ニ至リ相前後シテ三
使共帰投以テ海軍省ノ無事ナル報ヲ得ルト共ニ始メテ
送信文ヲ受領スルヲ得タリ尔後徒歩連絡ニ依リ續々送
信文ヲ受領シ旁々受信文ヲ送付スルヲ得タリ其後六

日ニ至リ受信所ニ送信機到着シ且受信モ或程度迄ハ可
能トナリルヲ以テ送信文ハ主トシテ無線ニ依リ當所ニ送り
更ニ之ヲ規程ニ據リ送信スルゾトセリ
斯クシテ八日ニ至リ通信線モ完成セシヲ以テ從來通り受信
所ニ於テ管制スル事トナリタレハ通信頓ニ順調ヲ見ルニ至
レリ警備ニ関シテハ送受両所間ノ聯絡杜絶セシク種
々ノ錯誤ヲ生シ遺憾ノ莫多カリシモ要スルニ送信所警
備ニツキテハ徹頭徹尾小官ノ歎願聽カレス終始不安ニ
堪ヘサリシ為如斯失能心ヲ演シ誠ニ相濟マヌ事ト思考
シ居レリ(後ニ至リ陸軍ノ交渉ハ其都度行ヒタルヲ知リ又
結果ヨリ見レハ徒ニ宣傳ニ乘リタル事トナリ慚愧ニ不堪)

然レ兵少官ノ独断専行ニヨリカノ騷擾時ニ於テ騎兵二百名
ノ派兵ヲ請ヒ小隊ヲ得テヨリ歩兵一六名並ニ霞ヶ浦航空
隊ヨリ出セル陸戦隊三七名ノ派兵ニヨリ警備ヲ嚴ニセシテ
以テ村民ハ勿論所員モ亦漸ク安堵シ主任務タル通信
ニ全カク注クヲ得タリ

以下時日ヲ追ヒ其記憶ヲ述ラントス

前一日
前二一五

大地震ノ為メ送受兩所間ノ連絡全ク断タレタルヲ以テ
規約通り無線ニ依リ聯絡ヲ図ラントセシモ更ニ應
答ナキヲ以テ午後一時ヨリ主無電系ノ管制ハ船橋
送信所ヲ以テ行フ横須賀電信所ハ通信機関
破壊サレタルモノ、如ク阿蘇之ニ代リ別無電所トシ

一日 后二	<p>由ヒ東京受信所ヲ無線ヲ以テ連呼セシモ應答ナク又本所内通信局モ他トノ通信全ク絶エシヲ以テ東京方面ハ勿論各地トノ通信連絡全ク杜絶 復ニ焦慮セシモ如何トモスヘカラス</p>
一日 后三	<p>新聞電報ノ末尾ニ「東京一今日暴風雨正午ヨリ強震連續横濱大火盛ニ燃エツ、アリ」ヲ放送ス</p>
一日 后四	<p>各所ヨリ受信セシ電報ノ送達處方々偵察スヘク海軍省へ第一回公用ヲ出ス（諸準備ニ出衆稍遅ル）</p>
一日 后六	<p>東京方面ノ火災愈々確實トナリシテ状況視察傍受信文送達ノ為第二回公用使ヲ出ス</p>
一日 后七	<p>別紙タナヘ電ヲ放送ス之ヨリ主無系ノ通信益々</p>

頻繁トナル

一日 後七―〇 佐世保へ返電トシテタナニヲ送信ス

九―〇 通信社ノ新聞電報、報時等ヲナス避難民續

々来ル

二―三 一般宛別紙タナニノ電ヲ送信シ震災概要ヲ通

報ス(交付時間后一〇―四五)

二日 前七―五 前日派遣セル公用使未タ帰投セサル為ノ掛念ニ不

堪ルヲ以テ更ニ自轉車ニ熟達セルモヲ還檢之前

夜来ノ受信文ヲ送達スヘク第三回公用使ヲ出ス

前五―〇

七―三五

前二日
九一〇

夕ナ五ヲ再送ス

〇〇二一〇

主無系各所ヨリ多数ノ受信アルモ本所ハ之ヲ受信人
(主ニ海軍省)ニ送達スルノ道ナク昨日來既ニ三回ノ
公用ヲ出セシモ消息不明ニ付一般宛別紙夕ナ六ノ
電ヲ送信ス(交付時間前九一五五)

后〇一四

佐電ヨリ電報輻輳ニ付毎偶数時間連絡セシメ
肯申越セルニ対シ別紙夕ナ四一如ク返電ス

クニ一五

第三回公用使海軍省ヨリ多数送信電報ヲ待テ
飯所ス之ニヨリ始メテ帝都ノ震災程度及通信
交通機關全^{其責任重大ナルヲ要感シテ}状能ク知^知銳意之レ等
緊急電報ノ速達ニ努ム之ヨリ先キ避難民ヨリ

二日
後三
—
。

得タル情報ヨリ第三報ヲ巨細ニ亙リ放送スル予定
ニテ原文ヲ交付セシモ緊急信多キヲ以テ中止シ奇数
偶数時共連続通信スヘク決心セリ

第一、二回公用使帰所各方面宛ノ緊急信多数持
テ来ル本所ハ之等緊急電報ヲ一刻モ早ク送達ス
ルノ重大任務ニアルヲ自覺シ且本所送信勢力ト
通信巨萬ヨリ推ス時ハ吾送信ニ対スル各艦所ノ
受信容易ナルヘキヲ信シタルヲ以テ三時ヨリ七時七分
迄トニテ連続送信ス但シ三四時ハ電球式送信
機五時火花式送信機六七時ハ電球式送信機ヲ
使用ス

1448

二日
后七―七

前公用使ノ持參セシ電報一先ツ片付キタルヲ以テ該
時間ハ專ラ主無系ノ受信ニ努ム各所トノ通信順
調ナリ

〃八―〇

海軍省ヨリ第一回陸軍傳令各所宛電報多数
持々来ル

大湊、父島及南洋方面行動艦船宛電報ハ混信ノ
為解否不明ニ付至急ヲ要スル電報ハ時機ヲ得次
第二回放送シ後報解信トセリ(大湊、父島、舞鶴ハ
混信少ナキ時ニ於テ直接交信セシ事モアリキ)
送信電文(譯)難者、公用使、警官等ニ依リ東京ニ
於テ鮮人ノ暴動ヲ知り敵愾心愈々高シ

1449

二日
九日
三日
前
三
一
〇

〇
三
一
四
五

別紙(夕ナニセ)ヲ放送シ海軍省ノ無事ナルヲ報ス
 附近村落(主トシテ船橋中山八幡方面)ニテ警鐘ヲ
 乱打スルヲ以テ海嘯ニアラスヤト思ヒ船橋警察署
 ニ問合ハシタルモ電話不通ノ為ノ要領ヲ得ス
 海軍省ヨリ第三面伝令ニ名送信電文持参来着ス
 其ノ言ニ依レハ中山市川方面ニ鮮人暴動起リ漸次当
 方ニ襲来ストノ事ニ付キ直々ニ総員ヲ集メ武装警
 戒ニ任シ海軍通信両官舎居住者ヲシテ本所ニ收容
 スル後兵曹長ヲシテ通信監督ニ機関兵曹長ヲシ
 テ警戒監督ニ當ラシメ小官ハ一般ヲ指揮監督シテ
 専心通信ノ迅速確實ヲ計ル傍ラ警戒ヲ嚴ニセリ

三月
前九日

鮮人ニ関スル諸情報類リニ至リ實際目撃者ノ談
等ヲ綜合スル時ハ益々警戒ヲ嚴ニスル必要アリ且所
員ノミニテハ到底防禦不可能ナルヲ知リシヲ以テ陸軍
兵力ノ分派ヲ請ヒシト決心シ所長ニ派兵ノ手續ヲ文
書ニテナスト同時ニ差当リ次ノ処置ヲトリタリ即ケ公用
ヲ出シ市川砲兵旅團司令部ニ本所警衛ノ為派兵方
依頼セシニ目下東京方面ニ出陣中ニテ派兵ニ應シ難
ケレハ大久保衛戍司令官ニ請求セシトノ事ニテ
別紙甲ノ如ク照会シタルニ拆返シ別紙乙ノ如キ返
翰ニ接シ騎兵ニ〇名ヲ派遣セラル事トナレリ而シテ通
信ハ益々輻輳スル一方ニ當時ハ夏季休暇中ニテ

1451

三日
一〇

手不足ナルト且鮮人襲来ノ噂高キ為メ之カ警戒任
務等ヲ寸暇ノ休養モ得ラズ所員漸ク疲労ノ色見
ユ

第三回傳令送信電報持参午後三時三十分第四回傳
令送信電報持参来着共ニ沿道ノ警戒振テ報シ本
所爆撃ノ報ヲ齎ラス頻々ナリ

四
一〇

本所偵察兵帰所シテ曰ク先程市川ニニのノ鮮人
来リ渡河ヲ防止セントシ格闘逮捕シタルモ其大部分
ハ中山ヨリ法典方面ニ逃走セリト尚印内青年團ハ

中山ニテ七名逮捕各々爆彈所持トノ報告ヲナス
船橋避難民収容所ニテ爆彈ヲ携帶スル鮮人ト格

クク
四一〇

副逮捕セル警官本所警備ニ来ル

傳令来所ノ度毎ニ文書ニテ陸軍若シクハ陸戦隊ノ出
兵ヲ請ヒシ之ニ関スル返信更ニナキヲ以テ甚掛念ニ不堪
トコロ愈々危機ノ迫ルヲ知リ別紙ヲナセ五ウナタケ
ヲ受信所宛送信ス

クク
五一五〇

第五回陸軍傳令電報持參通信順調ニ進行セリ
日没后警官地方青年團並ニ在郷軍人團ヲ以テ
用地外壁ニ動哨ヲ主ナル交通路ニ哨兵ヲ配置シ所
員ハ主トシテ構内警衛ニ任スル傍ラ自轉車ヲ以テ船
橋八幡方面ニ候ヲ出シ情况ヲ偵察セルムコトセリ
習志野騎兵學校ヨリ特務曹長ノ率ユル騎兵一小

クク
七一三〇

隊ニ到着本所員ト協力警備ニ任シ騎兵亦候シ
各方面ニ派シ情況ヲ偵察セシム右小隊長ノ談ニ依
レハ

✓ 一 本日午前鮮人ニの名本校(騎兵學校)ノ火藥庫ヲ
襲撃セシモ逸早ク急ヲ告ケタル歩哨ノ為無事
ナルヲ得タリ

ニ鮮人所澤航空隊ノ附近某村落ヲ焼打ケス之レ
今回暴動ノ發端

當夜ハ空電激烈ニシテ通信困難ナリシモ四日午前ニ
時頃ヨリ漸次減退シ大湊舞鶴等ト交信シ放
送電整理及主無系ノ受信等頗ル進捗ヲ見ル

信局
信局

三月 八日 五	夕 夕 一 一 五	四 日 前 七 一 〇	夕 夕 一 一 五
<p>状況不穩ニ付別紙ヲナハシノ電ヲ所長ニ送信ス 印内村青年團ノ報告ニ依リハ八幡方面ニ鮮人三〇名 現ハレ各々爆彈ヲ所持シ格闘ノ旨七名ヲ捕縛シタル モ残りニ三名東方ニ逃走スト</p>	<p>本所四周ノ村落(比較的遠方ヨリモ来ル)ヨリ消防隊在 御軍人(前夜警戒中ヨリタルモノ以外モ)等手ニシテ尤 器ヲ携エ一斉ニ本所へ集合ヨリ今鮮人ノ一隊電 信所ヲ襲撃スルカラ直ク應援ニ行クト云フ命令ガ アリマシタル報ヲ得即チ襲撃ヲ自標トシテ本所ノ 名現ハレシレ始メ</p>	<p>鮮人一名用地内西部ニ現レ警戒兵及青年團等ニシテ</p>	<p>夕 夕 一 一 五</p>

四日
前八—三

追跡せし山林中ニ逃レ遂ニ捕縛スルヲ得サリキ

曩ニ所長宛文書ニテ歩兵一五〇出兵ノ交渉ヲ願出デ

シモ返信ナク状況ハ益々吾レニ不利ナルヲ以テ更ニ所長

宛援兵急派ヲキ別紙ヲナニ二三ノ電ヲ送信ス

騎兵第十三聯隊ノ小隊(ニ〇)ト交代

四日
信〇—三〇

受信所ヨリ伝令電報持參通信ハ順調ニ進行ス

避難民ノ談ヨリ彼等對スル敵愾心極度ニ達シ

又鮮人ノ組織的暴動ニ関シ油断ヲ許サズルモノ

アルヲ知ル

四日
三〇—三〇

休戦中ニ本所兵員自警隊等甲州街道烏山附

近ニ貨物自動車(運兵士邦人二名其上方ニ警備官ノ服装ヲ

履キ本所ノ兵士ニ見レテ鮮人ニ警備官ノ提灯ヲ打テ

フリナカラアブナイ
アブナイト連呼シニ鮮人一六各拳銃ヲ携エ俗モ米俵ヲ
滿載セシカ如ク装ヒ兩側ヨリ銃口ヲ出シテ駈走シテカラ
良民ヲ亂射スル処ヲ青年團在御軍人ヨリ逮捕レ陸軍
差ニ警官ヲ処置(中数名撲殺サレルモアリ)セルヲ終始目
撃シタリ

ニ鮮人五〇〇人住死(國トナリ多数ノ舟ヲ仕立テ、多摩川
ヲ遡江ニ子ノ渡ヨリ上陸北上茲ニ在御軍人同青年
年團等ト格闘多数ノ死傷アリ彼ニハ有力ナル武
器ヲ有スルヲ以テ竹槍、烏口等ニテ到底敵シ難キ
テ附近ニ居住スル実兄ヨリ聴取セリト
三市内ニテハ石油ヲ隔タシセルビール瓶並ニ爆彈ヲ所持

四日
后六〇

セハ鮮人各所ニ放火ヲナシ諸官衙ヲ襲フト」

二日以來送信ノ機會ナカリシ(至急ヲ要スルノ事ナリ又
實際其機會モナカリシ故)外國行電報ヲ午後二時原
ノ町ニ送信セシ「K」ニテ皆了解以後毎日午前八時
ト午後二時ニ連絡ヲトル様恆定ス

受信所ヨリ一水一東所臨時勤務某項本郷區長ヨ
リ傳令トシテ青年團員來所中邦人社會主義者
一團船橋電信所破壊自的ヲ以テ今朝東京ヲ
出發セリト」

右状況ヲ判断スルニ鮮人ト認ムルハ彼等ノミニアラスシテ
主義者トノ所謂聯合軍ナリ然ルハ相者ニ武器

1458

ヲ有スヘク襲撃振リモ亦秩序的ナルモノト見サルヘカラス
即チ連日東京方面ヨリ追ハレタル彼等ハ附近鮮人ト
相提携シ一舉ニ襲撃スル計畫ナラン是ニ於テ警
戒ヲ益々嚴ナラントセシモ昨夜來應援ニ來リシ青年團
在郷軍人等ハ疲労ノ為ノ五六名ノ外未ラス所員モ亦
連日連夜不眠不休ノ警戒ニテ疲労甚シク特ニ電
信員ニアリテハ之カ影響甚シク為ニ送信ノ際ニ消字
誤認等續出スルノ状態ニテ警戒ハ第一ノ問題トシ
通信上甚不安ヲ感シタリ素ヨリ昼間用事ナキモノハ
最小限度ノ警戒兵ヲ残シ成ク安眠セシメントセ
シモ連続至ル警戒ト殆間断ナク乱打セル警戒鐘

四日
後七日
三〇

ト、依リ彼等モ安閑トシテ睡眠スル能ハス結局銃ヲ執
テ防禦線ニ就キ銃ヲキテハ日本刀、木刀若シクハ鉄
棒ヲ奮ツテ自警スルノ止ムヲ得サル状況ナレハ小岡ヲ得
テ潛勢力ヲ養ヒントスルカ如キハ一見スレハ一同囁々獲
兵ノ来着アリ、鶴首ニテ待テ居リシ次第ナリ
頃小官ノ問合ハセ、対シ船橋警察署長ヨリ左ノ宛
話アリ

鮮人三〇。船橋海岸ニ上陸ストノ事ヲ目下取調中
ナルモ不明、茨城縣ノ鮮人團首所破壊自的ヲ以
テ南下セリト報アレハ充分気ヲ付ケシタシ爲念
右依リ船橋中山方面ニ自轉車偵察兵ヲ出不

四日
八一〇

頃騎兵ノ保護セル軍用電話（千葉—船橋—本所間）
ニテ小隊ノ報告

八一五
八二三

鮮人五〇〇ノ行徳ニ上陸船橋電信所ニ向フ
右電話ヲ『只今ノ行徳ハ浦安ナリ』

印内村ノ青年團ヨリ傳令自轉車ヲ乘リテノ報告
ヲナスト共ニ兵力ノ分派ヲ數願ス

『只今西海神ニ鮮人一五〇ノ上陸セントス之ヲ上陸セシムル
時ハ享重大ナルヘケレバ成ヘク未上陸ノ禮ニ擊滅シ度
依テ兵力ノ分派ヲ願フ』ト

小官ノ状況判断

曩ニ行徳方面ニ上陸セシ鮮人團ハ行路上諸障害ヲ

ルヲ以テ他ノ一國ニ對シ比較的障害(防禦)少ナク而シテ電信所ニ至ル最捷路タル西海神ニ上陸シ一挙ニシテ本所ヲ襲ハントスルモノ如シ

決心

時間ハ不明ナルモ行徳方面ニ上陸セシモノハ先ツ一時間以内ニ到着スルモノト思ハルヘカラス然レテ西海神方面ノ敵ニ對シテハ右傳令ノ言ノ如ク未上陸ノ裡ニ敵ヲ滅スルハ策ノ最上ナルヲナレトモ一方ニ衆敵ヲ擡ヘナカラ我ニ塞兵ヲ以テシテ尚其中ヨリ守兵ヲ割クカ如キハ到底出來得ヘキ事ニアラス依テ該方面ノ敵ニ對シテハ所在青年團在郷軍人團等ニテ極力之ヲ防禦シ力足ラズンバ

止ムヲ得テ兩敵ヲ迎ヒ茲ニ戰ハント決心シ左ノ如ク申渡

セリ

「状況右ノ如クナレハ遺憾ナク兵カノ分派ニ應ジ難シ願フ
ハ諸君ノ最良ナル手段ト報國的精神トヨリ該敵
ノ殲滅ニ努メラレ度シト」

是ニ於テ更ニ騎兵休候ヲ急派シ一方所員ヲシテ自転
車ヲ急速偵察ニ當ラシムメ同方面ニ対スル警戒ヲ
益々嚴シクシテ他方警察ヲ付シ陸軍ト提携シ機
兵ノ増派ヲ請ヒシテ餘カキ為度ニ難シトノ下ナリキ
行徳方面ノ鮮人襲撃ニシテ一四六ノ電ヲ所長宛打

電(但史付時
八時ト入)

四月
八日

四月
九日

騎兵作候揚着

解人ノ一團ハ西海神ニ上陸只今コケラニ向ヒマス

決心

騎兵アレテ副塔外方ニ於テ側面ヲ攻撃セシメ銃隊

(所員)ヲシテ垣外ニ於テ散兵ヲ撃テ數キ残リハ垣内

(主トシテ直接電信室電源室)ノ周圍ニ在リテ格闘ノ

配置ニテラシム

惟テ四五〇人ノ不逞國ヲ前ニ拒ヘ我ハ唯騎兵ニヨト

島合ノ衆ニ近キ小數ノ電信所員トシテ如何ニシテ防

禦シ得ヘキ戰時敵地ニ於テ左ノ如キ運命トナシム

之レ軍人ノ本領何レモ國家ニ捧ケ身ニシテハ盡忠報

國ノ好機會ナルヲ死守之レ努メ力足ラハ謀ク戦死
モ遂クヘケレ。帝都ノ近クニ在リ然モ平時ニ於テ當時ノ
大任務ニ鑑ミ、又防禦ニツキ豫メ各種ノ手段ヲ講シ
ナカラ、海軍通信兩官舎其他ノ避難民ヲ收容シナカ
ラ、何ントシテオメク被等ニ破ラレハキ兵ハ少ナリト虽モ武
器ハ鮮ナリト虽茲一吾人等ヲ尽シテ死守セサルヘカラス
今ヤ陸軍ニ来ラス民衆ノ應援モナシ、若カス馬川
沖ニ碇泊セル艦艇(陸戦隊ハ既ニ出帆セル如クナリ)
ニ急テ告ケシニハト即テ持久戦ニ依リ或時間ヲ持レ陸
戦隊ノ来着ヲ待テテ敵ヲ殲滅セントス而シテ演習ホ
ナハ危急符ノ特約モアレ目下ハ之ニ代フヘテ該當符

自今力(一)多あり
あふり(二)トナリ

西 橋 修

類の句(一)大(二)也(三)

新入(一)言(二)の(三)亦(四)橋(五)上(六)陸(七)危(八)急(九)迫(一〇)じ(一一)ラ(一二)送(一三)信(一四)セ(一五)日(一六)右(一七)終(一八)ら(一九)分
其(一)所(二)送(三)便(四)リ(五)絶(六)続(七)ら(八)じ(九)然(一〇)こ(一一)以(一二)嘆(一三)惜(一四)合(一五)ト(一六)ラ(一七)援(一八)兵(一九)

遠(一)其(二)吹(三)日(四)午後(五)八(六)時(七)半(八)

即(一)々(二)咄(三)嗟(四)ノ(五)裡(六)ニ(七)思(八)出(九)セル(一〇)ハ(一一)〇(一二)〇(一三)〇(一四)ニ(一五)シ(一六)テ(一七)陸(一八)上(一九)電(二〇)信(二一)所(二二)
ノ(二三)使(二四)用(二五)ス(二六)ヘ(二七)キ(二八)符(二九)号(三〇)ニ(三一)マ(三二)ル(三三)ハ(三四)萬(三五)々(三六)承(三七)知(三八)シ(三九)タル(四〇)モ(四一)單(四二)注(四三)意(四四)

1466

即ケ咄嗟ノ裡ニ思出セルハSOSニシテ陸上電信所
 ノ使用スヘキ符号ニマシラハ萬々承知シタルモ單ニ注意
 喚起ノ意味ヲ以テ左ノ如ク命令セリ(官所表内)
 SOSノ援夫タム船橋ヲ連嚙セヨ右終ラハ其後
 送信ヲ継続スヘシ然ルモ傳令ハ咄嗟危急ノ場合
 於テ援夫頼ムヲ失念セシト見エ單ニ「SOS船橋」
 一ツヲ連送セシモノナリ然レハ通信ハ瞬間モ休マズ
 終容迫ラス恭然トシテ送信事務ニ當リ名實
 讃ニ値スルモノナリ(当直者三曾佐藤重吉、土屋雄健)
 要之當時錯乱セル小官ノ心情ヲ分解スレハ

1467 1466

一、當時小官トシテハ無援孤立ニアル独立指揮官トシテ
 當時有線無線等著々電信界ニ於ケル唯一ノ通信
 機關タル本所ノ任務ト吾人ノ責任トヲ餘リニ重大
 視過キタル事(人事トシテ其モテ後ニ殉
 難シハ其情合テ不可ナル意)
 二、遊難民ノ收容シタル關係上往年ノ尼港事件ヲ聯
 想シ前車覆轍ノ識ヲ免レタク思考シタル下
 三、日警保局長(或ハ警視總監ナリシカ
 内務大臣ナリシカ)ヨリ山台縣知事宛
 鮮人暴動ノ聞スルニ其モテ横濱東京ニ於ケル
 彼等ノ暴動ノ根據アリ組織的ナル事ヲ聞知シテ
 ルツクテ事能心容易ナラスト豫テ自覺モルコト
 四、通信機關ノ杜絶セル關係上遊難者ノ自撃ヲ談

警察官ノ実験談所員並ニ青年團ノ報告等ハ
此場合眞トセサルヲ得サリシテ陸軍ノ作候
報告ニ至リテハ誰シモ疑ハサル所ナリ

五、電信所員トシテハ偵察作候等萬全ヲ尽シタル
モ當時以上探究スルノ餘裕ナク從ツテ他ノ報告
ノ組織的秩序的ニシテ且連続的ナルハ愈々眞
實ナリト思ハサルヲ得サリシコト

六、東京方面ニ於テハ宣傳等ハ事件一般落込絶對
ニ知ラサリシコト

七、警頭ヨリ警備ノ手薄ナル為メ甚不安ナリシ事

八、出兵要求ニ對シ何等ノ返信ニ接セサルヲ以テ無援

孤立ノ念ヲ更ニ深クシタル事

九、最后ノ騎兵作候報告ハ危急符放送ヲ執行セ

シタル直接原因タルヲ

百、右ハ海軍陸戦隊ノ来援ヲ促カスト共ニ之カ實現

迄極力死守スル決心ニシテ右ハ危急符ヲ放送スルモ

尔后通信ヲ継続スレハ通信上何等ノ故障ヲモ

来サルモト確信シタルヲ

等ナリ

通信状況ニ至リテハ寔ニ煩調ニシテ最ニ大漢舞鶴

等宛放送セシモノ第一回送信ヲ了解シ居リシヲ

知レリ

<p>鳳山ハ本日ヨリ應答ナキヲ以テ同所宛電ハトニ 送ノ上後報解信ノ旨指定セリ</p>	<p>昨日來受信所トノ無電連絡ニ注意スルモ先方ノ 感ナシ</p>	<p>五日 前五〇 別紙タナ一八四ノ電ヲ打電ス</p>	<p>ハ八一〇 通信ニ関シタナ一四九ノ電ヲ所長宛送信(了解セシモ 時間不明)</p>	<p>ク九一五〇 別紙タナ一四七ノ電ヲ打電ス</p>	<p>ク二一〇 海軍省ヨリ公用使電報ヲ持参</p>	<p>ク二一五 騎兵第十四聯隊ヨリ一個小隊(二〇)未着第十五 聯隊ト交代ス</p>
--	--------------------------------------	-------------------------------------	--	--------------------------------	-------------------------------	---

五月
廿二日

戒嚴司令部ヨリ笠井參謀來所警備隊打合セ
ヲナシ最大限度ノ出兵方ヲ約ス

クク
廿三日

霞ヶ浦航空隊ヨリ負方中尉ノ率ユル陸戰隊
三七來着夕十一五六ヲ所長横鎮參謀長宛打電

クク
廿八日

步兵學校ヨリ步兵一六來着夕十一七三所長宛
打電

クク
廿九日

右横鎮參謀長宛打電(交付時后九時)
受信所ト無電連絡可能トナル然レハ時トシテ不通ト
ナルアリ

大日
前六日

通信状況一徹ニ順調ニシテ自晨ニ恆定セル時間ニ於テ
原ノ所トノ通信最順調ナリ

ク 六 一 〇	中央氣象台ヨリ藤原博士來所警報、報時事務 ニ付打合ハセサス
ク 三 一 四 五	騎兵第十五聯隊ヨリ一佃小隊(二〇)來着、第由聯 隊ト交代ス
ク 〇 一 五	水雷學校ヨリ電信員四名臨時派遣
ク 一 一 五	受信所トノ無電連絡確實トナリタルヲ以テ別紙ヲ 十六六ノ電ヲ主無系統宛送信ス
ク 六 一 〇	警報、報時事務ニ關レ別紙ヲナニ〇三ノ電ヲ所 長宛送信ス
ク 七 一 〇	送受兩所間ノ無電聯絡ハ主トシテ偶数時間ニ於 テスルヲ以テ該時間ノ一部(前八〇)ヲ對原ノ町通信

						七日 前 一〇一〇		八日 前 五一〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇
割片ハ部内 <small>(外論)</small> 通信ノ進捗上甚不利ナリ故ニ外	國行電報ノ幾分ヲ鉦子經由原ノ所ニ送信スル片ハ	右電報ノ捌方上非常ニ有利ナルヲ以テ數日前ヨリ	鉦子船橋間、全力開通ヲ慫慂シタリニカ遂ニ実	現セシル後外國行電報ハ右經路ニ據ル幸トシ	大ニ有効ナリキ	千葉衛戍司令官三好少將ノ交渉ヨリ警備中ノ	騎兵ニ〇茲ニ歩兵一六撤退	霞ヶ浦陸戰隊撤退	海軍省ト通信線一本完成	別紙ヲナシ三三ニテ横鎮參謀長及所長ニ打電ス	

<p>入日 七 〇</p>	<p>管制電鑰線完成震災后始メテノ使用</p>
<p>七 五 〇</p>	<p>警報並ニ報時事務ニ関シ別紙タナ三三七ヲ放送ス</p>
<p>九 九 〇</p>	<p>警備隊引揚ノ為本所兵員ノミニ警戒ニ任ス</p>
<p>九 九 〇</p>	<p>通信ノ直ニ名宛ヲ配シ努メテ受信 <small>(兵主無事)</small> <small>(伝ハ横スガ方面)</small></p>
<p>十 月 五 〇</p>	<p>震災ノ為ニ次電池室ヲ破損ニシテ電池保存上 ヨリ直接修理ノ旨照會ス <small>(別紙)</small></p>

甲

大正十二年九月三日

船橋送信所

騎兵旅團司令部御中

船橋送信所警衛ノ件

當送信所附近ニ北総鉄道工事ニ從事中在籍人
 數百名アリ是等籍人ニ東京方面ノ不逞團ト提擧
 本所ヲ襲撃セルルトキハ通信(目下各省通信一季
 引受テ取込中)全ク杜絶スルニ付甚ク懸念ニ不堪依而
 右警備方可然此配慮相煩ハシ度
 右依頼ス

1476

遼々右鮮人ノ集團ヲ討テテ極力調査中ナル事未
定ナルト交通機關ヲ為テ全ク不明ニ候

終

1477

乙

發九月三日午後五時五分

習志野衛戌司令官代理 三好少將

船橋送信所長殿

御依頼ノ件承知即刻騎兵一小隊ヲ派遣スル如ク

下命スル旨

1478

